

## 第 38 回教育学部大久保農場収穫祭のご報告

教育学部大久保農場主任 荒木祐二 (技術分野)

11月2日(金)に埼玉大学教育学部大久保農場にて、ものづくりと情報・技術分野の「栽培技術の基礎(実習を主とする)」受講生一同ならびに大久保農場が主催する収穫祭が行われました。

当日は大学から川又副学長, 教育学部から馬場副学部長, 細渕前学部長, 近藤先生, 萩生田先生, 関口事務長, 藤田学務係長, 平泉氏(ご息女同伴), 大関氏, 菊田氏がご参加くださいました。また, さいたま市長からメッセージを頂戴しました。

司会はものづくりと情報分野 2 年生の佐藤君が務め, はじめに農場主任の筆者が収穫祭の趣旨説明と大久保農場の活動概要を述べました。

つづいて川又副学長から、「この度が 4 回目の参加。英語の“Culture”はラテン語の“Colere”に由来する。田畑を耕すから, 心も耕す意味で使われるようになり, 現在の文化や教養となった。ジョンロックの言葉に, 「種ムギが何倍にもなって返ってくることを理性的に予想し, ムギを育てる」というものがある。“耕す”は理性のはたらきによって生まれるもの。収穫を喜ぶのは, 理性を耕した成果を味わうことになる。学生の皆さんには心も耕して育ててほしい。」といった受講生を激励するご挨拶を賜りました。続いて, 関口事務長から「今年は大型台風の被害を受け, 収穫まで多くの苦労があったことだろう。優秀な学生, 農場の教職員, 大地の恵みに感謝して乾杯。」という音頭の下, 宴が始まりました。



歓談の合間には, 馬場先生より「勤務 13 年目にして初参加。結婚式のような会場になっている。先週に附属中で聞いた大地讃頌の「土に感謝せよ」の意味をいまになって理解できるようになってきた。今週は「収穫に感謝せよ」と言いたい。最近「作り手への感謝」が薄れてきている。今日は作ってくれた優秀な学生の皆さんに感謝したい。“読解”は本を読む力であるが, 元は「自然を読む力」。学生の皆さんにはそんな人材になってほしい。」という



含蓄のあるご挨拶を頂戴しました。続いて、細渕先生には「今日は学部長の代理としての参加。これまで7-8回参加してきた。来年からも参加したい。収穫祭では美味しいものが食べられて嬉しい。学部長の任期を終え、半年間羽を伸ばしてきた。その間、自宅の畑で作物をつくり、サツマイモを収穫した。しかし、ホームカミングデーで購入した農場のサツマイモの方が美味しかった。土の難しさを半年待つて知る活動は楽しい。土づくりから始まるのが農業の深さ。今日は楽しみと喜びを味わいたい。」といったお話をさせていただきました。その後、農場講義

室内のプロジェクターを利用して、浅子技能補佐員より栽培実習のようすが上映されました。幼稚園児の可愛らしさと、実習生たちの表情とのコントラストが、妙なインパクトを残しました。引き続き、受講生による余興があり、栽培実習で犯してしまった過ち（収穫時期を逸してピーマンが赤くなったなど）に関するギターの弾き語りが披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。最後に全員で埼玉大学歌を斉唱し、前農場主任の石田先生による「収穫祭は今回で38回目を迎えた。自分が就任する前にも2回行われていた。埼玉大学の年誌から、収穫祭は深谷に農場があった頃から続いていることが読み取れる。おそらく80年くらいやっているのでは。都市農業振興基本法が平成27年に制定された。その発祥は埼玉県の学校ファームの振興。平成24年くらいから川口や春日部などで学校ファームを用いた農業体験活動の取組みが実施されている。農場はその活動を指導する教員養成のフィールド。農場が今後も続くことを願っている。」という中締めのご挨拶をもってお開きとなりました。

収穫祭は五穀豊穡を祝うとともに、大久保農場の運営にかかわる皆様との親睦を図る貴重な機会ととらえております。同時に、それまで何気なく栽培実習を受講していた学生たちが、自分たちが育てた作物の品質をご来賓の方々に評価していただく経験をとおして、実習の意義と達成感を味わえる行事です。受講生が主役となって役員や教職員の皆様を招待し、厳かなながらも和気藹々と楽しめるこの収穫祭が、これからも農場運営に携わる皆様と受講生らの交流の場になることを願っています。今後も大久保農場の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 収穫祭を終えて

三井有咲（技術分野1年生）



私たちは初めての収穫祭を少しの期待と多くの不安で迎えました。先輩方や先生方から収穫祭は毎年恒例の行事で来賓の方もいらっしやると聞いていたので、失敗はできない、絶対成功させなければいけないと不安が多くありました。しかし、準備の段階から栽培学研究室の先輩方や先生方が進め方を教えてくださり、栽培実習基礎の受講者と協力し、徐々に収穫祭の会場が出来上がっていく中で、どのような会になるのか期待が膨らんでいきました。

収穫祭が始まると、想像していたより多くの来賓の方がご参列くださり驚きました。そして、今年初めて参加される方、毎年参加されていて皆勤賞の方などがおられ、収穫祭の歴史の長さを感じました。また、農場で自分たちが栽培した作物で作った料理は、普段食べている食材より愛着があるからかとてもおいしく感じました。浅子先生のスライドショーによる実習風景の紹介によって来賓の方々にも、私たちの栽培過程を理解していただくと共に、大久保農場で楽しく実習を行っている雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。

そして、皆さんがおいしそうに食べている姿を見ることができて、作物を育て消費者に喜んでもらうという栽培の喜びや達成感を今回の収穫祭で感じる事が出来ました。またこのおいしい料理になるまでに、土づくりや苗の選定から日頃の水やり、防除などたくさんの工夫と苦労があるということも栽培基礎の実習の授業で学びました。だからこそ、普段食べている作物にも感謝をすることを忘れてはいけないことを再認識しました。

最後に大きな問題もなくスムーズに収穫祭を進めることができたのは、事前準備を重ねてくださった栽培担当の荒木先生、浅子先生をはじめ、栽培学研究室の先輩方のおかげです。また収穫祭という一つの行事を協力して作り上げたことで、1・2年生同士の絆も深まったように感じます。今回の収穫祭で得た経験を今後の人生に活かしていこうと思います。

